

妙正寺川 × 郷愁

行楽の秋にそなえて

妙正寺川 × 自然をぶらり

中野区には神田川、妙正寺川、古田川、善福寺川の四つの一級河川が流れている。中でも妙正寺川の東部は都市の風致、良好な自然的景観を維持するための風致地区に指定され、1963(昭和38)年に解除されるまで、「野方風致地区」として自然が保護されていた。現在もその自然は色濃く残っており、これから迎える行楽の秋にぴったりの、彩り豊かな姿を見られる。今回は、vol.19で紹介した鷺宮・野方地域の妙正寺川を東に進み、風致地区時代の特徴を今に残す松が丘・上高田地域を中心に、妙正寺川流域をご案内したい。



▲哲学堂公園(昭和10年代) 提供:中野区

妙正寺川 × 自然をぶらり

1933(昭和8)年2月7日、現在の新宿区の中落合から中野区の松が丘にかけて、約21万4千坪という広大な敷地が風致地区に指定された。当時の人々は哲学堂公園、葛が谷御霊神社(新宿)、オリエンタル工場ほか多くの緑樹景観が点在し、妙正寺川の清流が流れ、詩情溢れる理想的な住宅地として脚光を浴び、その景勝を保つ「野方風致地区」の指定を篤く歓迎した。

特に哲学世界を表現した哲学堂公園は、哲学や社会教育の場として整備された背景を持ち、全国でも類を見ない文化的な公園として知られている。その哲学堂を中心に風致地区の自然景勝と呼ばれた地が現在においても多く残っている。例えば、哲学堂公園より川を挟んで北側にある片山北野神社は、地域の鎮守神社として古くからあり、自然豊かな保護樹林を現在も有している。

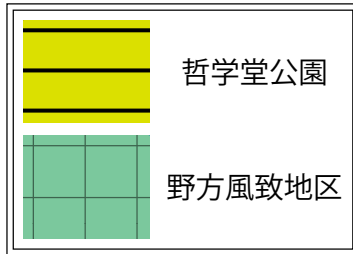
自然の豊かさに由来するエピソードがオリエンタル写真工業(現サイバーグラフィックス社)の社史に残されている。1915(大正4)年に



▲哲学堂公園(2015年12月撮影)

オリエンタル写真工業が工場の敷地を探した際、大崎、渋谷、多摩川と様々な地域を廻ったが、写真材料といった精密機材を扱うに足る水質の川と、広大な敷地を見つけることができなかった。しかし、たまたま哲学堂公園を訪れた際、「清水がながれてをり、(中略)なかなかの幽邃境だつた。」として、その自然と妙正寺川の清さに目を止め、現在の妙正寺川公園や葛が谷御霊神社の南にオリエンタル写真工業の工場と写真学校が建てられた。現在ではその姿を残していないが、この工場や写真学校では敷地内に公園を持ち、周囲の自然と融和するような建物が建てられ、哲学堂と並ぶ景勝地として語られていた。

※景色などが物静かで奥深いこと(広辞苑 第六版より)



- ① 江古田図書館
- ② 片山北野神社
- ③ 野方配水塔
- ④ 葛が谷御霊神社
- ⑤ 上高田図書館
- ⑥ 東光寺

妙正寺川 × 寺をぶらり

妙正寺川沿いは多数の寺社に囲まれている。特に上高田は、中野区最大の寺町として知られている地域であり、社寺林が形成する緑はいずれも風致地区として箔をつける存在であった。そのなかでも、東光寺は江戸時代に上高田村の菩提所として創建し、地域に寄り添って歩んできた寺の一つであり、風致地区を代表する景勝地のひとつとして、度々その名が挙がって



▲東光寺(2016年8月撮影)

妙正寺川 × 記録をぶらり

いた。戦災によりその多くが焼けてしまったため、当時の姿は残っていないが、再建した現在も色あせることない名所となっている。現在は豊島八十八ヶ所霊場の87番札所としても知られており、中野区登録有形文化財である庚申塔と地蔵を境内で見ることができている。

今回紹介した妙正寺川地域では、四季折々の色とりどりの姿を見せる上高田図書館や、閑静



▲上高田図書館(2016年8月撮影)

参考文献

- ・『江古田の歴史(全10回)』岩淵文人/著 2009 所蔵:中央、江古田
- ・『中野区寺院案内』中野仏教連合会/編 1983 所蔵:中央、南台、鷺宮、江古田、東中野
- ・『オリエンタル写真工業株式会社三十年史』オリエンタル写真工業/編 1950 所蔵:中央
- ・『東京都市計画叢書・第1号風致地区概要』(国立国会図書館デジタルコレクションより) <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1140466> (2016年7月16日確認)

な住宅街の中にあり、多くの景勝地に囲まれている江古田図書館がある。もし行楽の秋にこの地域を巡るのならば、是非図書館に寄ってほしい。そこには、多くの人々が自信と誇りを持って、地域の自然の素晴らしさを伝えた記録が、地域資料として保管されている。彼らの想いに触れることで、その散策はより趣深い色彩をあなたに届けてくれるだろう。